

兵庫 J C C

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

■ 第 15 号
 ■ 1990年7月2日発行
 ■ 編集発行
 兵庫県協同組合連絡協議会
 Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives
 ■ 編集事務局
 〒650 神戸市中央区海岸通1番地
 兵庫県農業協同組合中央会
 TEL. (078)333-5888

目 次	1. 「アジアと女性と協同組合」 1	漁協 8
	灘神戸生協 理事 湯浅夏子	森組 10
2. 協同組合運動への提言 3	4. 協同組合の基本的価値をめぐって 11	～日本協同組合学会春季研究集会報告～
3. ひょうごの協同組合活動紹介	5. ICAとはこんな組織です 14	6. 協同組合運動に生きる 16
生協 4	灘神戸生協 常任理事 碓井美智子	
農協 6		

アジアと女性と協同組合

～私のみた人々の暮らしと協同活動～

1987年の日本生協連の通常総会で、アジアの生協支援の方針が打ち出されました。そして、アジアの生協連帯委員会が設けられ、協力活動の財政基盤として、「アジア生協協力基金」への拠金が呼びかけられました。

これまでICA(国際協同組合同盟)では、東南アジア・南アジアを中心に、域内各国の生協運動の発展を支援するプロジェクトを展開し、各国生協の発展政策の確立、人材育成、経営改善のための技術面、財政面での協力を行ってきましたが、日本もICAの一員として、アジアに於て民間レベルでの協力と交流をはかるために動きはじめたわけです。

とりわけ90年代には、アジアの発展途上国の人々の生活の改善向上が重要であるとの見地から、生協への女性の参加を呼びかけるセミナーや、ワークショップ、婦人会議を積極的に展開して、協同組合運動を通して、アジアの人々との組合員レベルでの交流をすすめていこうとしております。

今回、7月7日の第68回国際協同組合デーに、この活動の一環として、インドから6人の協同組合の女性代表を兵庫県にお迎えすることになりました。いずれも組織やプロジェクトのリーダーの方ばかりですから、イキイキと活動している日本の生協運動



インド協同組合中央会でのミーティング
 (中央がムカジーさん)

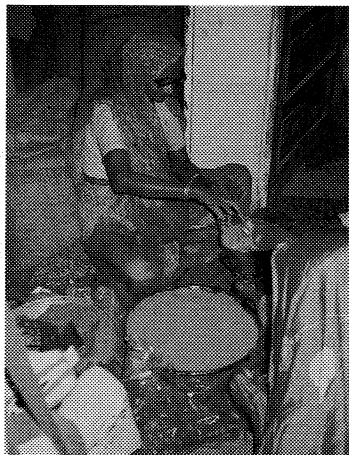
の女性と直にふれ合っていて、そこでの見聞の成果を、インドの協同組合の活動に生かしていただきたいものだと思います。

私は、アジアには、ヨーロッパやアメリカとはまた違った女性特有の問題が存在していると思っています。アジアは広大で、多種多様な民族が暮らしており、決してアジアは一つなどというものではありません。とくに経済的に豊かになった日本からは、アジアの女性の生活が見えにくい。インドでは女性はサリーをまとい、カレーを食べているということは知っていても、女性がどんな社会環境におかれ、

何に悩み、どんな暮らしをしているかをほとんどの人が知らないのが実情です。

そんな中で、インドやスリランカに行ってみて、まず感じるのは貧しさです。私の訪れたスリランカの山村には、まだ電気も水道もなく、50人の飲み水は谷間にある2カ所の井戸水でした。バケツと壺を抱えて、1日に2回、水汲みに来るのが女の人の仕事で、遠い家だと片道1キロも山道を歩いて来るのが日課なのです。もちろん食べ物は自給自足。従って協同組合では、香辛料などの産物を集荷したり、資金を貸したり、時には仏様の祀ってある集会所で、お喋り会をするのだということでした。明るく、くったくなく楽しそうでしたが、肉や魚など買いたくてもお金がないので……と小さな声で言っていました。

昨年訪れたインドでは、ネルー政権当時から、協同組合運動を推進する政策をとったこともあって、協同組合への女性の参加の機会と権利は、男性と同様に与えられているにもかかわらず、主体的に参加している女性はごく



香辛料の袋詰め作業 (インド・アグラ市生産協同組合)

わずかです。組合員はほとんどが男性だということです。もとケララ州の協同組合担当の大臣だったカマラム女史によれば、生協の運動は失業と国民のかかえている問題を解決するよい方法だと考えられますが、カースト制があり、そのうえ男女はまだまだ社会では自由ではないので……と歯がゆそうでした。

それでも全インドには、4,161もの女性ばかりでつくっている協同組合があるという統計数字を見て、私は不思議に思いました。そのうちの約半数が産業協同組合ということで、その内容を尋ねると、手工芸・手織り・洋服仕立て、食品加工、印刷、革加工などの手仕事を女性のみの組合員で運営しているものだという事でした。

“なぜ女性ばかりで協同組合をつくるのですか？”との質問に対し、インドでは昔から男女の役割分担があつて、男女別にグループ化されていること、女性は自宅の近くで、パ



下着を縫う女性組合員 (アグラ市生産協同組合)

ートまたはフルタイムで働くことによって、生計をたてることができること、協同組合のシステムを学びながら、所得を得ることができることなどの利点が説明されました。いま人気のある女性協同組合は、牛を共同で飼って酪農製品を生産する酪農協同組合と、女性同士で信用貸しをする女性信用協同組合だということでした。

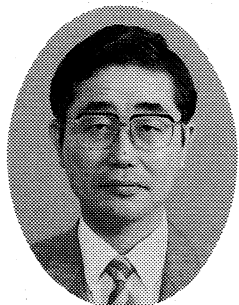
私たちは、SCC (スウェーデン協同組合センター) プロジェクトの一環として、3年前から活動をはじめたアグラ市(ニューデリー東南、203km)の女性協同組合を見学しました。35人の組合員女性が出資金1口25ルピー(218円)を出資して、作業場を借り、手まわしのミシンで下着を仕立てたり、一方では香辛料をひいて袋詰めをしていました。製品は街の生協の店に出すということです。「ここで字も教わって、自分の名前が書けるようになりました」、「わたしの1か月の生活費の約半分を稼ぎ出すことができ嬉しい」——みんなは目を輝かせて私たちに話しました。

「インドではまだ女性は社会の中では自由ではありません。今まで働く場さえなかった女性が自立するには、自分たちで協同組合をつくって、助け合って仕事をし、貧乏からぬけ出すことがその第一歩なのです」と、このプロジェクトの推進者であるインド協同組合中央会のムカジーさんは静かに語りました。

スウェーデンは、このように女性が自国で自立して暮らせるように、お金とノウハウを提供しています。私たちもこれからどのような支援活動をすればよいのか、みんなで知恵を出し合わねばなりません。

(灘神戸生協理事 湯浅夏子)

協同組合運動への提言



協同組合間提携の 視座と展開方向

東京農業大学

助教授 白石正彦

＜協同組合間提携の視座転換＞

わが国の協同組合は、戦後、職能別協同組合法という制度的枠組みに規定されながら独自の歩みをたどってきたが、とくに経済の高度成長による大量生産大量流通の歪み(公害、食べものの複合汚染など)から生活を守り向上させるため、主婦層を主体とした地域生協の組織拡大、農業における米の減反・転作の拡大、漁業におけるいわゆる200海里時代を契機として農水産物などの“産直”や“産消提携”を主軸とした協同組合間提携が広がり始めた。

しかし、1985年のいわゆるプラザ合意以降の急激な円高、貿易黒字体質により、わが国は世界の中の経済大国となったが、国民の多くはそれにふさわしい豊かさが実感できず、中山間地域の空洞化や異常な地価高騰で都市部での居住権がゆらぎ、晩婚化傾向も強まるなど歪んだ構造の下におかれ、ますます競争原理こそは社会正義であり、それに適応できないものは時代遅れであるという風潮が広がっている。

協同組合間提携は、以上のような構造的歪みを直視し、従来の“産直”や“産消提携”という枠組みにとどまることなく、「生活の豊かさとは何か」を全面に掲げて自然及び地域環境保全、福祉、廃棄物のリサイクル、地域経済振興、地域生活文化の創造、地域計画など、従来の空白領域を包含しながら、組合員の運動及び事業として提携関係を広げていくべき段階を迎えている。

＜協同組合間提携のラセン的展開＞

以上のような「生活の豊かさ」を戦略的課題とした協同組合間提携は、一方において従来の同種協同組合の連合組織による積み上げ(垂直的連合)を縦軸とし、他方において地域を単位とした異種協同組合の提携・連合(水平的連合)を横軸として位置づけ、後者を重視しつつ、運動の中から事業化に挑戦しようとするものであり、協同組合のアイデンティティを明確にする上でもますます重要となっている。

とくに、使用済み食用油や牛乳パックの回収による石鹸や再生紙の生産・供給の事業化に取り組む環境生協や、高齢者の寝たきり老人の介護を旨とした福祉生協、主婦層を中心としたワーカーズコレクティブ、中高年者の労働者生産協同組合など、地域を単位とした多様な協同組合が芽生えつつあり、これらの新しいタイプの協同組合との連携や設立参加などを強める必要がある。

さらに、“産直”“産消提携”も、たとえば生協組合員の食肉委員会と農協黒豚部会の毎月1回の定期会合、生協と農協の組合員が交流できる“産直の家”の建設など、組合員の交流の中から生産費をベースとしたおいしさ、安全性を重視した農畜産物や加工品の共同開発と事業化(異種協同組合によるフードチェーンの拡大)という交流・事業並進によるラセン的展開が戦略的課題であり、これを先導する双方の役員と担当職員の意識改革を強調したい。

首都圏の生協との野菜産直に取り組んでいるある農協の専務さんから「生協の共同購入の班長さんや当番さんが、最後の残りものをとるような苦勞をさせない品質保持と選別に気を配っている」という話を聞いたことがあるが、農協サイドにおいても生協の班活動を支援したいという心配りに基づくきびしい組織・事業システム化への挑戦こそ協同組合間提携を持続させる物流上の原点があり、卸売流通とは質的に高度なシステム化にもつながるものである。

兵庫 J C C が新しい視座から県下の協同組合間提携の運動・事業の質的強化と地域的広がりを支援していくことを期待している。

ひょうごの協同組合活動紹介

生 協

消費者の権利を守り、豊かな くらしを実現するために

兵庫県下の地域生協組合員は、1990年4月現在で100万人(世帯)をこえ、生協のある地域で10世帯のうちおよそ6.5世帯が生協組合員ということになります。そして大学、職域、医療、共済などの生協も、順調な伸びをみせており、県下生協の総事業高は前年比6%増の3,402億円となりました。

また生活必需品をのべ約3,000品目にわたって価格引下げを実施した「生活バックアップキャンペーン」をはじめ、福祉ボランティア活動や平和行進、生活文化活動などの分野でも活発な活動を展開しています。

兵協連(兵庫県生活協同組合連合会)は、こうした生協運動の成長を背景に、5月に開いた90年度通常総会で、向こう3カ年の活動の指針となる中期計画を審議し決定しました。



平和行進をする生協組合員

人間らしい

豊かなくらしの創造

この中期計画では『人間らしい豊かなくらしの創造』を基本理念に、重点政策・課題としてつぎの5点を掲げています。

1. 『事業連帯推進委員会』を設置し、激動する時代を勝ち抜くために、新たな事業連帯づくりを推進すること。
2. 地域生協の活動区域を兵庫県全域に拡大すること。

県下生協の実勢(1990年3月末現在)

	供給高(千円)	前年対比	組合員数(人)	前年対比
灘 神 戸 生 協	297,546,529	106 %	969,196	104 %
地 域 生 協	12,505,152	100	30,814	104
職 域 生 協	4,033,014	103	64,927	102
大 学 生 協	9,351,983	106	40,807	101
医 療 生 協	9,149,995	107	82,235	100
共 済 生 協	7,647,678	145	862,535	100
他 の 生 協			41,783	105
合 計	340,234,351	106	2,092,297	102

3. 消費者の権利を守り、豊かなくらしを実現するため、生活者の立場から提言する。
4. 長寿社会のすすむなか、保健・医療・福祉のあり方や生協の果たす役割を求めていくこと。
5. 1992年ICA東京大会の成功をめざし、協同組合間提携および国際交流を促進すること。

地球にやさしい商品を！

生協の全国組織である日生協（日本生活協同組合連合会）でも、この6月に総会を開催しましたが、特に重点的課題として環境問題を取りあげました。

地球的な環境破壊がすすむなか、組合員の環境問題への関心の高まりに応えたもので、基本方針をつぎのように決めました。（抜粋）

1. くらしの中から環境をみつめ「地球にやさしい」あり方を考え、息の長い運動をすすめていく。
2. 「Better for Nature」の考え方を基本にやさしい環境商品づくりをすすめる。
3. 各種協同組合を始め、諸団体や国際的な交流をすすめる。

この基本方針のもとに、図示したような統一テーマと統一マークを定め、全国的な活動をすすめることにしています。

灘神戸生協も統一マークでPR

こうした方針のもと灘神戸生協は、組合員、役職員が一体となって事業、組合員活動の両面から環境問題に取り組むことを決めています。組合員活動で



きれいな水を守るための工夫展
（灘神戸生協の組合員まつりで）

は『暮らしをみなおし、環境にやさしい暮らし方を実践します』との行動指針のもと牛乳パック回収運動の推進や「環境チェック表」による暮らしの自己点検活動の推進などの組合員活動をすすめることにしています。

商品の分野では故紙を利用した商品群や生活雑排水の浄化に役立つ商品群の強化などをはじめ環境にやさしい使用品に統一マークを付け、商品の特長、通常使用品との違いを明確に打ち出すことにしています。

また、事業運営上でも職員教育を徹底するほか、コピー用紙やチラシの再生紙使用やスタッフバッグ再利用運動を促進するなどとしています。

神戸大学生協でも年間400万枚におよぶ業務用コピー用紙を再生紙にきりかえる方針を打ち出すなど環境問題への取り組みが大きな課題になっています。

見つめよう  暮らしと地球

農 協

安全な食料供給へ 系統農協が指針づくり 全国各地で組織討議を展開中



全国農協交流集会で活発な意見が
交換された(市島町で)

消費者・国民のニーズにこたえ、自然・生活環境の保全をはかりながら日本の農業を振興していくため、系統農協では、「安全で良質な食料・農産物の供給の対応方向」組織討議(案)をまとめ、この基本的な考え方をもとに、いま全国各地で組織討議が行われ、その具体的実践策への意見集約が行われています。

討議の内容は、①基本方針、②附帯検討事項、③輸入農産物の安全性——の3本柱となっています。

「基本方針」では、国の定める農薬の安全使用基準を遵守する。また、健康な土づくりなど、3項目が提示され、第2の「附帯検討事項」では、特定の栽培方法で生産した農産物の表示と有機農業への考え方と対応方向が示されています。表示では、農薬と有機肥料の使用状況を9ランクに分け、栽培方法を明示する考え方を打ち出しています。

また輸入農産物の安全性については、今後消費者と話し合っ適切な対応を決めることとし、ポストハーベスト問題などは消費者との連携を深めながら

安全で良質な食料・農産物の 供給の系統農協の対応方向

(組織討議案) — 抜粋 —

1. 基本方針

系統農協は、消費者へ安全で良質な農産物を安定的に供給するため、次のことを基本とした生産活動を推進する。

- ① 国の定める農薬の「安全使用基準」を遵守する。
- ② 有機質の適切な投入による健康な土づくりを推進する。
- ③ 耕種的防除法等を加味しながら、農薬の使用を必要最少限度にとどめていくことを推進する。

※ これらを推進するための具体策は組織討議を経て別途定める。

2. 附帯検討事項

- (1) 特定の栽培方法で生産した農産物の表示について

消費者のニーズに応えるため、栽培基準(特定した栽培方法の内容)を設定するとともに、その公表と遵守を原則に表示区分により栽培方法を明示し出荷することを推進する。

- (2) 「有機農業」の考え方と対応方向

その概念や基準があいまいなため、国際的な動向を踏まえて「一切の化学物質を使用しない栽培方法」としてとらえ、わが国の風土に合った農業の確立の方向とも関連づけて生産技術・流通等の方法について研究をすすめる。

3. 輸入農産物の安全性についての考え方

収穫後に薬剤が散布された(ポストハーベスト)農産物や、日本では使用が禁止されている農薬を使用した輸入農産物の安全性の問題については、今後消費者と話し合っ適切な対応を図る。

4. 今後の検討方向

上記の考え方について組織討議を行ない、平成2年度末を目途に意見の集約を図る。

取り組むことを討議の“たたき台”として示しています。

これらの考え方について、各都道府県段階で組織討議を行い、平成2年度末までに系統農協としての方針を決定する予定です。

市島町で有機農業全国農協交流集会開く

このようななかで、全国農協中央会(全中)主催の有機農業全国農協交流集会が、6月20・21日の2日間、氷上郡の市島町農協管内で開催され、全国の農協担当者約120人が出席、有機農業への取り組みについて真剣に討議されました。

この交流会では、阪神間の消費者グループと15年間にわたり有機農産物の産直に取り組んでいる、市島町有機農業研究会からの実践報告とあわせ、消費者の立場として「食品公害を追放し、安全な食べ物を求める会」の代表からは、産消提携活動と有機農業への期待について報告され、今後の取り組みについて、活発な意見が交換されました。

但馬では産直交流で お互いの信頼関係深める

その他、県下においては、但馬地区の但馬日高、但東町、村岡町の3農協と灘神戸生協との間で減農薬・有機栽培「コシヒカリ」の契約生産が行われています。“組合員が求める安全・良質な米の産地を確保したい”という生協側の意向と、“付加価値の高い米を生産し、有利に販売したい”という産地側



ひざを交えて話し合う交流会(但馬日高)



田植えの実習をする生協担当者(村岡町)

の意向とが一致して、昭和63年から取り組まれています。

産地では、「本田の防除は3回まで、肥料は100%有機肥料を使用する」など、生協と協議して決めた栽培基準を守って栽培されています。

またこの取り組みは、生産者と消費者とのお互いの信頼関係を深めることが重要であり、年間数回にわたり交流活動も行われています。

農協の概要

項目	全国	兵庫県	項目	全国	兵庫県
連合会数	649連合会	20団体	年間販売事業高	6兆1,263億円	1,029億円
総合農協数	3,639組合	107組合	年間購買事業高	5兆384億円	1,117億円
正組合員総数	555万人	20万9千人	貯金高	44兆4,589億円	2兆6,820億円
准組合員総数	279万人	11万1千人	長期共済保有高	265兆4,756億円	10兆9,479億円
「家の光」発行部数 (平成元年12月号)	162万部	62,000部			

但し、組合員総数及び年間事業高は総合農協取扱高である。(全国は平成元年3月末、兵庫県は平成2年3月末現在) 総合農協数は全国・平成2年3月31日現在、兵庫県・平成2年4月1日現在。

漁協

試練に挑む

2つの海に臨む兵庫県の漁業

兵庫県は、日本海と瀬戸内海の二つの海に臨み、それぞれの自然環境や地形の違いから漁業形態も異なっている。

県北部にあたる但馬地区の海岸線は、直線距離43kmと日本海側の府県の中では最も短く、地形は海岸線から急傾斜をなし、岸から15kmで水深200mに達する。このように但馬の海は、沿岸の漁場には恵まれていないが、沖合には対馬暖流が流れ好漁場が形成されているため沖合漁場が中心となって漁業が行われている。

その漁法は、大型漁船(30トン～99トン)で網を曳きズワイガニ、カレイ、ハタハタ、ニギス等を獲る「沖合底曳漁業」やスルメイカを集魚灯で集め、自動いかつり機で漁獲する「沖合いかつり漁業」、水深800m～1,500mの海底にサバなどの餌を入れたカゴを連ねて沈め、カニを誘い込んで獲る「ベニズワイガニかご漁業」などの沖合漁業と網船1隻、灯船3隻、運搬船1隻～3隻、計5隻～7隻が一組となって但馬沖に回遊してくるイワシ、アジ、サバ、ハマチなどの魚群を網で漁獲する「まき網漁業」、または、魚の通り道を遮断し魚群を網に誘導して、ブリ、イカ、マグロ、イワシ、アジ、サバ等を獲る「定置網漁業」や「一本釣漁業」などの沿岸漁業が行われており、昭和63年には2万7千トンが水揚げされ、その漁獲金額は134億円となっている。

当地域には5つの漁業協同組合があり、約2,800人が漁業に従事している。また優れた技術を持った水産加工業が盛んなことから日本海側では有数の漁業地帯となっている。

一方、瀬戸内海は、温暖な気候と多くの海の幸に恵まれ多種多様な漁業が古くから発達してわが国沿岸漁業の原点と言われ、漁業技術の開発はもとより改良、並びにその伝播についても先進的役割を果たしてきた。また、瀬戸内海は河川より流入する栄養

分が豊かなことから生産性が高く、魚貝類の産卵、育成場となる浅海、干潟、藻場などにも恵まれ好漁場が形成されており漁船漁業が盛んである。

なかでも、最も水揚量の多いのは機船船びき網漁業で2隻の漁船が一組となり、袋状の網を中層又は、表層でえい網して、イワシ類やイカナゴ、シラス等の浮魚を漁獲する漁法で、63年には漁船漁法(本県瀬戸内海側)水揚げ量6万1千トンの56%に当たる3万4千トンを漁獲し、94億円の漁獲金額となっている。

また、瀬戸内海を代表する漁業では、生産額で漁船漁法(本県瀬戸内海区)の約4割を占める(120億円)「小型機船底びき網漁業」がある。この漁業は、5トン未満の動力船により袋状の網で海底をひいてエビ類、カレイ類、タコ、アナゴ等を獲る漁業である。その他、まき網漁業、刺網漁業、釣漁業、はえ縄漁業、小型定置網漁業などが行われ、63年の水揚げ量は6万1千トンで生産金額は約300億円となっている。

さらに、瀬戸内海では、穏やかな海を利用して海面養殖漁業が行われており、とくに冬の漁業として発展したのり養殖は、色つやが良くおいしい「兵庫のり」として全国に知られており、本県瀬戸内海漁業総生産額(518億円)の約4割に相当する金額をあげ、重要な漁業として位置づけられているほか、ワカメ、カキ、ブリ養殖なども行われている。なお、内海側には、61の漁協があり約7,800人の漁業者が漁業に従事している。

この但馬地区と内海地区を合算した兵庫県の総生産額652億円は全国第11位(遠洋、母船式漁業を除く。)の位置にあり、魚種別の生産量をみると、ノリ、シラス、サワラ類、ハタハタが第1位、イカナゴ、タコ類が第2位を占めており全国有数の水産県として重要な役割を果たしている。

漁業をめぐる環境の変化

最近の外国200海里水域での操業規制は、米国水域内のゼロ割当てみられるように急激なものがある。さらに、公海における操業まで規制しようとする動きがみられる。

これに対応してわが国周辺水域の高度利用がますます

まず重要になっていることから、栽培漁業の振興などをとおして資源の維持増大に懸命に取り組んでいるが、依然としてくり返される日本海における資源を無視した韓国漁船の無謀な操業は、漁具被害はもとより資源、漁場の荒廃が進み、深刻な問題となっている。

その原因は、国際200海里時代が定着した今日なお日本海(東経135度以西)が全面的に適用されていないことによるもので、当面の緊急措置として漁業操業に関する水域の設定と監視、取締り体制の確立を一刻も早く実現するよう運動を展開している。

一方、沿岸域において、大規模な開発が計画され具体化している。このような開発には、埋立てによる漁場喪失のほか、海岸線や流況の変化とともに後背地の都市活動や産業活動の変化に伴う、新たな汚濁の増大などが懸念されるとともに周辺の漁場環境にさまざまな影響をおよぼすものと思われる。とくに、日常生活で排出される雑排水及びビニール袋やプラスチック類などの廃棄物が川から海へ大量に流失して海洋汚染や水質汚染が進行し、多くの漁業被害が発生している。

また、国民の余暇時間の増大や所得の向上を背景にいろいろな海洋性レクリエーションの需要が高まっており、その代表的な遊漁は年々増加し、遊漁者数は全国で延べ3,500万人といわれている。遊漁に使用される船舶も約15万隻で、その8割がマイボートで占められ、レジャー志向の強まりがうかがえる。しかし、遊漁と漁業が同一海面を使用し、同一の水産物を漁獲の対象とすることもあって、漁場利用をめぐる競合や紛争が生じることが懸念される。

その他、ヨットや高速モーターボートの走行による漁具や施設の破損やダイビングによる密漁等の被害

を受ける漁業者側からみれば、海の利用に際しては、海のルールへの遵守とマナーの向上を図り、秩序ある海面利用が図られるよう理解と協力を求めているかなければならない。

'90年代初めの漁協運動の実践課題

国際化、自由化、高度情報化が加速度的に進展する1990年代は、これまでの経験や感覚では対応することが困難と思われる新たな漁業時代を迎えている。このような変化のなかで、漁村社会の良さを守り発展させていくためには、その中核となる漁協と系統組織は、どんな役割と機能を発揮したらよいか、当事者自らが考え、答えをだし実践することが、どの時代よりも強く求められている。

昨年発表された第8次漁業センサス(漁業統計調査)の結果をみても5年前と比べ漁業経営体、漁業就業者、保有漁船数とも減少し、漁業者の高齢化が著しく進んでいることと、漁業依存度が低下していることを示しており、漁業の将来にとって危惧すべき事態となっていることを理解しなければならない。

いま、漁業者や漁協はこれまでの自助努力に加え、漁協に知恵と力を結集し、信頼される漁協組織を築くとともに人材育成を進め、漁協組織の活性化を図り、資源管理型漁業を柱に地域営漁計画を推進し、さらに漁業者や漁協による沿岸域の多面的利用の確立を図ることを実践の方向として取り組みを進めている。

「碧い海とたすけあい、漁村の良さを組織の知恵とパワーで！」

これからの漁協運動の共通の合言葉である。

漁協の概要

項目	全 国	兵 庫 県	項目	全 国	兵 庫 県
連 合 会 数	115連合会	2連合会	年 間 購 買 高	2,213億円	75億円
単 位 組 合 数	2,141組合	66組合	年 間 販 売 高	15,214億円	606億円
組 合 員 総 数	※552,822人	10,723人			

(注) 昭和63年3月末現在(※は昭和62年3月現在)

森 組

はじめまして!

わたしは「森林組合」です

私の名は「森林組合」(森組)と申します。

生活協同組合、農業協同組合、漁業協同組合のように、その名称のなかに「協同組合」といった共通四文字は入っていませんが、森林組合は、森林組合法に基づいて設立された森林所有者の相互扶助組織であり、まさしく協同組合の仲間なのです。

その組織は、各市町段階に単位森林組合、各府県段階に府県森林組合連合会、全国段階には全国森林組合連合会がありますが、平成元年6月30日現在の兵庫県下森林組合の現況は別表のとおりです。

**森林組合は
こんな仕事をしています**

森林組合には、森林の保続培養という資源政策に基づく公益的性格と、林業の発展と林業従事者の地位の向上を目的とするいわゆる産業政策を担う協同組合的性格の二面がありますが、森林組合のおこなう主な事業には次のようなものがあります。

- [山に木を植え、育てることを引き受けます]
※田舎に山を残して都会に出られた方々のその山のお守りも引き受けます。
- [育った木を伐り、売ってお手伝いをします]
※伐った跡地になにを植えるかを探り、それを植え・育てることもあわせて引き受けます。
- [山のオーナーになりたい方にお世話をします]
※低利・長期資金の融資もあわせてお世話できます。
- [国産材を使ったお住まいをお建てします]
※松・檜の香ぐわしい注文住宅をお建てし、有利なローンもご相談します。

県下森林組合の概要

項 目	数 量	主 要 事 業	取 扱 高
単 位 組 合 数	53 組合	販 売 事 業	1,607 百万円
組 合 員 総 数	74,008 人	購 買 事 業	816 百万円
組 合 員 所 有 森 林 面 積	409,128 ha	利 用 事 業	4,238 百万円
森 林 組 合 作 業 班 員 数	1,331 人	う ち { 造 林 事 業 保 育 事 業	1,243 百万円
(生 産 森 林 組 合)	(360 組合)		2,302 百万円

(連合会)兵庫県森林組合連合会
〒650 神戸市中央区北長狭通5-5-18 TEL 078-341-5082
(兵庫県林業会館内) FAX 078-341-6936

※ 昭和63年度森林組合統計による。



森林浴で自然との語らい

- [庭木を斡旋し、庭づくりも引き受けます]
※可憐な低木から重厚な高木まで……景石、組石も種々とりそろえます。
- [キノコの作り方、育て方をお教えます]
※栄養豊富で、自然の恵みいっぱいのキノコを自分で育て、味わってください。
- [花木、果樹の苗木を斡旋いたします]
※イチジク、ニレの木、サンショウにシラカシ。五葉松にムラサキシキブ。ナナカマドにヤマブキ、クリの木にドウダンツツジ。etc……
- [その他、山とみどりに関すること]

**森林組合は
今後こんなことをします**

- 木材を供給する機能のほかに、自然環境と生活環境を保全する森林の育成を目ざし、今後はこんなことをやってみたいと考えております。
- [自然休養村を整備します]
※天然林と渓谷がありなす美しい景観に恵まれた林内にキャンプ場、バンガロー、野鳥観察路などを設置し、都市住民の方々も気軽に出入りでき森林浴、自然体験学習のできるいこいの森づくりを手がけます。
- [林間別荘地を造成し、斡旋いたします]
※自然林をとりこんだ林間別荘地を造成し、ログハウス付き別荘の斡旋にも手がけます。

- [キノコ、山菜採取園の開設を計画します]
※都市部町内会などの親睦行事となるようなキノコ、山菜採取ツアーを募集し、採取や調理をして味わえる施設を、山麓に設置・開放する途を講じます。

“山のこと、みどりのこと”なら、なんでも
お気軽にご連絡ください。

協同組合の基本的価値をめぐって

～日本協同組合学会春季研究集会報告～

日本協同組合学会（会長・武内哲夫奈良女子大学教授）は、去る5月12日、東京・農協ビルで、「協同組合の基本的価値をめぐって」をテーマに、春季研究集会を開催した。今回のテーマは、1988年の第29回ICA（国際協同組合同盟）ストックホルム大会に提案されたマルコス報告（協同組合と基本的価値）の背景と検討課題をとりあげたもので、2年後の1992年に開催される東京大会に向けて関係者の理解を深めよう、というものであったと思われる。

マルコス報告では、協同組合の「基本的価値」として「参加・民主主義・誠実・他人への配慮」の四つがあげられているが、これらについての内容なり現実の運動との関連は必ずしも明確になっているとはいえない。しかし一方で、マルコス報告がこのような論理的曖昧さをもちながらも、協同組合運動をとりまく環境は、運動の単なる技術的対応で克服されるものではなく、協同組合のアイデンティティを明確にすることが重要な課題でもある。

ICA100周年大会（1995年、ロンドン）では協同組合原則の改訂がとりあげられるもようであり、レイドロウ報告（1980年）やマルコス報告でとりあげられた課題をさらに深くほりさげ、それをロンドン大会につなぐ役割を果たさなければならない東京大会は、それだけ大きな意味をもっているといっておかろう。

このような背景のもとで今回の研究集会では、中岡義忠氏（全国農協中央会）、大谷正夫氏（日本生協連）、大高全洋氏（山形大学）の三氏の報告をもとに「基本的価値」をめぐって活発な議論がくりひろげられた。

ここではこの三氏の「報告」の要旨を報告したい。



第29回ICAストックホルム大会
（スウェーデン・ストックホルム 1988年7月）

ICAにおけるマルコス報告と その後の検討経過

中岡義忠（全国農協中央会）

ICA東京大会は、1992年10月20日から30日までの間、東京新宿の京王プラザホテルで開催されることがほぼ内定しており、受入団体としてはJJC（日本協同組合連絡協議会）があたり、3月に組織委員会が発足、これが大会の運営をすすめることとなっている。大会参加者は約1,000名で、このうち海外からの参加者は600～800名とみている。

大会テーマとしては「基本的価値」が主要テーマになることがほぼ決まっているが、公式には大会1年前の中央委員会で決定される。また決議としては、今までの例からして開発途上国への援助問題がとりあげられることは間違いなく、このほかに、東京大会にふさわしい決議として、日本の協同組合にとって価値あるテーマについて検討しているところで、この秋の中央委員会で決定されるだろう。

さて、前大会でとりあげられた「基本的価値」は、どこであろうと、国の政治経済体制が如何なるもの

であろうと、協同組合の発展段階がどのようであろうともそこに存在する価値である。したがって、この問題は協同組合の原則にも関連しているといっべく、各国で協同組合の存在意義やその役割について様々な議論が展開されている中で、重要なテーマとなることが予想される。

1988年7月の大会以降、基本的価値についてICAの各加盟団体に質問状が出されているが、各国とも回答のしかたがむずかしい状況のようだ。東京大会の報告については、スウェーデン協同組合調査研究所のベーク氏に依頼されている。このベーク報告は1991年末までに終え、執行委員会の検討・許可を得て訳し、大会前に各国に配付される。これをもって幅広い議論や反応を呼び起こすこととし、可能なならば協同組合原則の変更の提案を行ない、1995年開催予定のICA100周年記念ロンドン大会に提出することになるであろうと考えられている。

なお、JJCでは4人の研究者に依頼して海外協同組合基本問題研究会を発足させ、基本的価値を中心に研究をすすめることとしている。

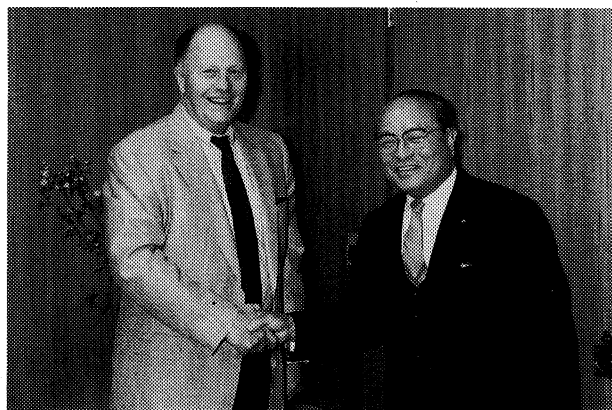
マルコス報告と欧米諸国の協同組合運動

大谷正夫(日本生協連)

ICA第29回大会でマルコス会長は「協同組合と基本的価値」について基調報告を行ったが、その中で彼はそもそも事の始まりは1986年春に東京で開催されたICA婦人委員会・生協委員会の合同会議で、日本の班活動を通じた積極的な組合員活動と参加に深い印象を受けたことにあると述べた。

さらに彼は、協同組合原則は変わりうるものであり、また変えるべきものであるといっている。特に、社会経済分野で変化が起っているとき、協同組合がどのように活動すべきかをこの原則は説明していない。また原則は各種協同組合活動や異った運営条件に適應するものでなければならない、といっている。

ICAでの協同組合原則の解明と統一的な形での



来日したマルコスICA会長と握手する
堀内全中会長(平成元年4月東京・全中で)

確認は常に時代の大きな変化を前にして行われてきている。その意味で今日の90年代の世界政治経済情勢の大きな移り変りは再び原則の改訂を大きな課題として要請しているのではなからうか。

ところで、レイドロウは今日の協同組合を思想上の危機にあるとし、第2にあげた経営の危機はもはや去ったとしたが、この結論は間違っていたといわねばならない。それは第3の思想上の危機とともに相関連して常に存在してきた危機なのである。特にヨーロッパの生協は、フランスでもイギリスでもドイツでもそうなのである。これらの国における生協の崩壊や不振の原因は決して一様ではないが、一言でいえば、事業をマネージできる優れた人材に欠けていたということかも知れない。しかし、協同組合の優れた人材とは何かということとなると単に高い経営能力の資質だけではあるまい。協同組合原則や価値を十分わきまえ、組合員参加と民主主義にあふれた経営を生みだすべき組織者としての能力が問われるのである。

そして、基本的価値の論議は、原則や日常運営のルールとも関連させて、トータルに深めていく必要があるだろう。そのために重要なこととしておさえておくべきことは先ず、協同組合が事業体であるということであり、そこでの健全性、発展性、先見性ということは競争場裡の中で活動しているだけに、重要視されなければならないということである。そして強調したいのは、価値の概念をわかり易く表現することによって気をつかうべきだということである。

マルコス報告と

日本の協同組合運動

大高全洋(山形大学)

協同組合の基本的価値とは、協同組合の特質のよってくるもの——価値観、信念とでもいうもので、現在存在しているものの価値、値うちではない。ICAがねらっているのも、協同組合の特質、値うちを明らかにすることであり、マルコスも同様に考えていたものである。マルコスは実践者であるから、その立場からだれにもわかる基本的価値を提示したものだと思う。そして彼は、私たちひとりひとりに対し、四つの基本的価値（参加、民主主義、誠実、配慮）をたたき台にして私たちの基本的アイデンティティを定期的に、かつ深く分析することを求めている。



第29回ICAストックホルム大会での
歓迎レセプション

ここでは、このうち組合員参加の問題を中心に考えてみるが、そもそも協同組合運動にとって組合員参加は理の当然のことであった。そして、組合員参加の一形態として国際的に注目されている日本の班(HAN)はロッチデールの伝統を受け継ぎ、日本の風土と時代状況のなかで生まれ、成長して今日に至っている。

マルコスは「基本的価値のアイデンティティ」の

最初に「組合員参加」を論じ、「協同組合は人々を動員することが出来る場合にのみ強力である」といっている。そして、「協同組合の実践の根底には、さまざまに表現され、またきわめて単純に表現しうる基本的価値がある。これらの価値のお陰で、われわれは商業的活動を広義の自助のための大衆運動に転換することができた。組合員にとってもわれわれの基本的価値は参加と分析のための基本的根拠である」と指摘しているのである。



協同組合運動における婦人の地位を研究
ICA婦人委員会(インド・ニューデリー 1989年10月)

われわれ日本の協同組合運動は、生協運動にそくしていえば「“買い物かご”は婦人が持っている革命的な武器である」というイギリスの婦人ギルドの思想を受け継ぎ、それを「民主主義の学校」といわれる班会において具現してきた。

自由と民主主義の「発展途上国」である日本の地域社会は欧米にくらべて住民自治の意識と組織がいまだ十分に発達していない。特に地方といわれる地域では官制的な住民支配と根づよいボス支配が残っている。これら新旧のタテ型社会の強い社会にあって、共同購入という日常的な経済行為の協同を媒介として新たなヨコ型の住民の連帯を形成していく生協の班活動は、日本の地域社会のなかでも特異な存在であるとともに、民主的な関係を発展させる面でも大きな役割を担っている。

(兵庫県農協中央会 加藤 整)

ICAとはこんな組織です

～第30回 ICA 東京大会の開催決定('92年10月)～

ICA(国際協同組合同盟)の最高意思決定機関である大会は、原則として4年に1回開かれることになっており、1992年10月の第30回大会は、ICA史上初めて欧州をはなれ東京で開かれることが決定されています。大会のテーマには、「協同組合とその基本的価値」に加え、「開発援助問題」さらには「環境問題」や「婦人参加」などの課題がとりあげられ、21世紀の協同組合運動の前進にむけて活発に討議される予定です。そこで今回は、このICAの組織や活動について紹介することにしました。

ICA(INTERNATIONAL CO-OPERATIVE ALLIANCE)

は、1895年ロンドンで設立された非政府国際機関です。社会的、経済的、政治体制の如何をとわず、相互扶助と民主主義の精神に基づき、協同組合原則を遵守する、あらゆる種類の協同組合によって組織されています。

現在のICA会員数は、76か国約200団体、会員団体が代表する協同組合数は74,000以上で、その傘下組合員数は6億人を超えています。

さまざまな会員団体で構成

ICAは、自らそのサービスを利用する人々が所有し、管理する事業体である協同組合の世界的利益代表であります。ICA会員団体は、消費生活協同組合(購買、保険、住宅、銀行など)と生産者協同組合(農業、職人、漁業、林業など)の双方から成っています。

これらの協同組合は、幅広い文化のなかで育ち、また先進工業国、社会主義国、開発途上国で設立されています。その規模は、年間取扱高が10億ドル単位の農協もあれば、組合員数が5～6人しかいない、ごく小さな職人協同組合にいたるまで、さまざまです。

世界の協同組合間での経済・友好を促進するのが目的

ICAの主な目的は、世界中に協同組合の原則と手法を広め、あらゆる種類の協同組合の利益を擁護することです。また、あらゆる種類の協同組合間の友好関係と経済関係とを国内はもとより全世界のなか



ICAのシンボルマーク

で促進することを目ざしています。

さらに、恒久平和と安全保障の確立のための活動は、すべての国の人々の経済的、社会的発展の促進を助長することもその目標とされています。

国連機関などと協力 しあいながら活動

ICAは、このような目的を達成するために多くの方途をとっています。相互の経験によって利益が得られるように、協同組合員の結集をはかるための国際会議などを開催しています。また刊行物を編集・出版したり、協同組合の教育・研究を促進し、調査もすすめ統計を集計し、各種協同組合のために活動する専門機関を設立して、国連機関や民間組織と協力しあいながら活動しています。(ICAは国連の諮問機関として第一級の地位を与えられています。)

最高の意思決定機関は ICA大会

ICAの最高意思決定機関は大会であり、この場に会員組織の代表が4年ごとに集い、共通の課題を討

議し、ICAの政策を決定しています。各会員団体が代表を送っている中央委員会は年1回開かれ、大会で決定された政策などを実施します。また執行委員会は、少くとも年2回開かれ、大会と中央委員会の決定事項が実施されているかどうか確認をしています。

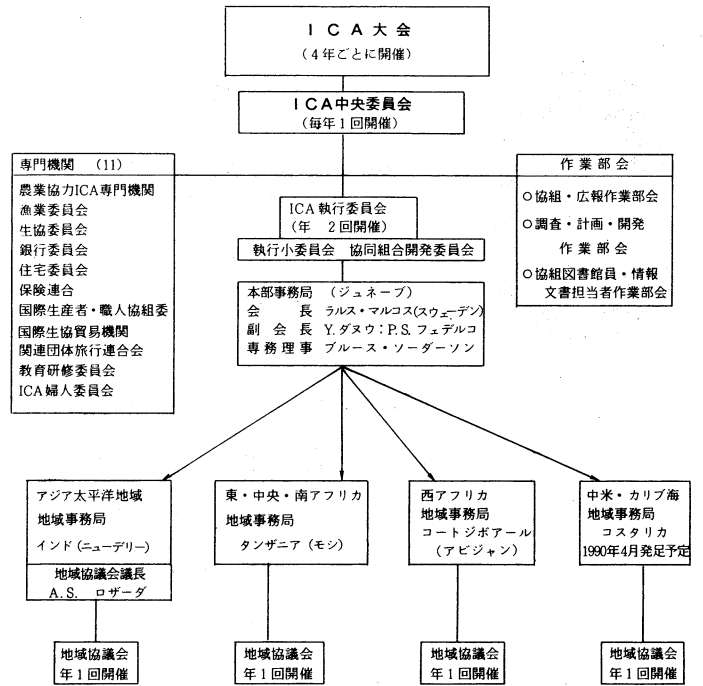
いろいろな分野での 専門機関を設置

ICA内には、特定の経済分野の協同組合が集まって、共通の課題を協議するための専門機関が置かれています。農業、漁業、住宅、労働者、保険、銀行、消費者、貿易、観光の専門委員会があり、このほかに婦人、調査、教育、訓練、協同組合広報に関する特別委員会や作業部会もあります。

事務局はジュネーブの ICA本部内に

ICAは、ジュネーブ(スイス)のICA本部内に常設事務局が設置されているほか、ニューデリー(インド)、モシ(タンザニア)、アビジャン(コートジボアール)に地域事務局が設置され、アジア、東・中・

ICAの機構及び専門機関



南アフリカ、西アフリカにおける協同組合開発の推進や支援が行われています。

また最近では、コスタリカのサンホセに、駐在員事務所が設けられるなど、他の地域にもこのような事務所の設置が検討されています。

わが国の ICA 及びその専門委員会等への加入状況

1990年2月現在
 かつて加入していた団体

ICA 会員団体 (9)	専門委員会および作業部会		アジア地域委員会	
	生協委員会	日生協	生協	日生協
全中	漁業委員会	全漁連		大学生協連
全農	CICOPA (生産者・職人協同組合委員会)	中高年雇用福祉事業団	ASIA-CICOPA (設立準備中)	(中高年雇用福祉事業団)
全共連	ICIF (保険連合)	全全共共日 共労共 連水共 連火共 連日火	AOA (アジア・オセアニア協会)	全全共共日 全全共共日 連水共 連火共 連日火
農林中金	インターcoop (生協貿易委員会)	日生協 全農	農 業	全 中
家の光協会	婦人委員会	全中(全農婦協) 全漁連(全漁婦連) 日生協	漁 業	全 漁 連
新聞連	UITCA (協組・関連団体旅行連合)	農 協 観 光	銀 行	
日生協	銀行委員会		教育・訓練	
	住宅委員会		貿易 SCTI: Sub-Committee for Trade & Industry	
	農業委員会	全 中 全農	人的資源開発 (Human Resources Development)	
全漁連	INCOTEC (教育・研修委員会)		そ の 他	
全森連	広報作業部会		CLICEC (国際貯蓄信用協同組合連絡委員会)	農林中金
	調査・計画開発作業部会			
	図書館員、情報文書担当者作業部会			

(注) 全 労 済 (全国労働者共済生活協同組合連合会) ……日生協の会員
 共 水 連 (全国共済水産協同組合連合会) ……全漁連の会員
 日 火 連 (全日本火災共済協同組合連合会) ……中小企業を対象とする
 大学生協連 (全国大学生生活協同組合連合会) ……日生協の会員
 共 栄 火 災、農協観光 ……全中の准会員

協同組合運動に生きる



人生80年時代の 半生期を生協で

灘神戸生活協同組合
常任理事 碓井美智子

人生80年時代の半生期を、私は生協運動に携わることができました。入所した昭和23年は、2つ大きな法律が制定されました。それは男女同一労働、同一賃金をうたった労働基準法と消費生活協同組合法であります。生協法は申すまでもなく組合員の相互扶助により、生活の文化的、経済的改善向上を図ることを目的とする、国民の自発的な生活協同の組織であると生協の目的が示されています。

当時の組合長であった故田中俊介氏が、この2つの法律が制定された意義について「日本の国は女性の時代が来る。生協は主婦を中心とした組合員組織である。女性を大事にし、女性の意見を尊重しなければ生協運動は存続し得ない」と話されました。

社会人になって初めて受けたインパクトが、今まで私の生協運動歴を支えてくれたように思います。灘神戸生協が今日のように大生協になるとは、当時は想像もつかないことでした。この間、専従職員の努力は大変な苦勞がありました。しかし、何よりも多くの組合員に支えられたことにつきると思います。

モノ不足の時は生協に力を寄せ合った人びとも、モノに満たされ、消費者のニーズが多様化し、価値観が変化するなかで、組合員の暮らし方も大きく変わってきています。従来のような組合員の生協に対する帰属意識がだんだん希薄になっていきます。生協はいま、組合員が望む生協になっているかを見直し、変革を求められているのです。

私の仕事の1つに、組合員の皆さんから寄せられる生協に対するご意見や苦情を受ける専用電話「コープベル」があります。組合員の意見を尊重し、民

主的運営をするのが生協の使命です。毎月1,500件近い情報を1つに集め、分析し、それらを常任理事が出席する総合情報委員会で検討し、問題解決や生協の政策に反映させるシステムをとっています。

このコープベルに最近異変が起きています。1つは男性のご意見や苦情が増えてきたこと。今まで家庭のことに関心のなかった男性が、生協で買い物をし、商品や職員のサービスや態度、チラシなどの情報についてご意見やクレームを申し出られるケースが多くなったことです。2つ目は高齢組合員が寂しさからでしょうか、ちょっとした生協のことを申し出られて、後は家庭や世間話に長時間電話をかけてこられるケースです。これらのケースが目立って多くなりました。

生協をよりどころにしておられる気持ちを察すると同時に、生協の福祉活動の一環として受けとり、気ながに対応していますが、生協の組合員サービスは際限のないものです。きめ細かい親切な対応、思いやり、そして誠実に対処して信頼が生まれることを、この業務を通じて一層の感をつよく持ちました。

昨年の『国民生活白書』は人生80年という生涯時間は70万時間に達し、そのうち成人以後の53万時間については仕事や食事、睡眠といった生活必需時間を差し引いた残りの約17万時間が、自由時間に当てられるとあります。この17万時間を、生協のさまざまな活動に参加することで、心ゆたかにくらせる、長寿であることがよかったと喜んでもらえる活動をしなければなりません。

生協が生活文化活動、福祉活動、青少年活動、コープスポーツ活動、そして日々のくらしの安心、安全、環境を守る活動、平和でありたいと願う運動を老若男女一緒になって参加していく。そこには人と人とのふれあいのぬくもりがある。

こんなことを考えると生協の活動に際限のない胸の高なりをおぼえます。

生協だけでなく、協同組合の基本理念を持つ農協や漁協とて同じことです。この基本理念に基づく事業や活動展開を考えると、いろいろなアイデアが生まれてきます。地域に協同思想を根づかせる運動に少しでもお役にたてることを誇りに思う毎日です。